

輪島市復興まちづくり計画策定に係る住民懇談会（町野・南志見地区）  
結果概要

日 時 令和6年11月4日(月) 9:30～11:10

場 所 町野支所 2Fホール

出席者 住 民：33名

行政側：輪島市 坂口市長、中山副市長、小川教育長、中前総務部長、山本企画振興部長、池腰市民生活部長、刀祢健康福祉部長、永井産業部長、福尾建設部長、田川建設部技監、木下教育部長、上畠まちづくり推進課長

事務局：田中復興推進課長、一本松主幹

① 市長挨拶

（坂口市長）

- 久々に皆さんのお元気そうな顔をお見かけできた。本日は私から復興まちづくり計画案の概要を説明させていただき、皆さんからご意見を伺いたい。正月の震災、9月の水害と2度にわたる大災害で、特に町野・南志見地区は壊滅的な被害を受けた。本当に大切な人、大切なものをなくされた方も多と思う。一方、これまでなかった新たな人との出会いもあった。これから、もとよりもっと豊かで安心して暮らせる地域を創っていききたい。その中で、新たなチャンレジをし、新たなまちづくりを行っていききたい。

② 復興まちづくり計画の基本構想（案）等の説明

（市長より資料に沿って説明）

③ 意見交換・質疑応答

住 民：10/30中日にて、能登町が準半壊一部損壊であっても補助金を開始するという記事があった。輪島市はどう対応されるか。

中前総務部長：能登町は被災家屋が少ないということでその補助を創ったようだが、輪島市はほぼ全建物が被害を受けており、一部損壊に対しても補助をするとなると支援規模が大きすぎて財政上の負担も大きくなってしまいますので、現状は国の制度にのっっている。

住 民：一部損壊であっても損害を受けており、全壊や半壊までとそれ未済と差が大きすぎる。

市 長：国にも要望を上げているが、今のところ叶えられていない。今回選挙の際に議員から再度調整してみるという声は頂いている。能登町は被災状況からして、準半壊を対象としても財政的に耐えられるが、輪島市では財政的に耐えられなくなり、公共料金が上がってしまいかねないので、市単独では考えていないが、義援金の配布として、一律50,000円または25,000円配布したところである。さらに手厚い支援は国や県に要望していききたい。

住 民：10/13 地区懇談会を予定していたが水害で開催できなかった。文章にて市から回答もらったが、内容に対しては納得出来ないので今一度寺山での懇談会を持ってほしい。

市 長：水害で開催できなくなって申し訳ない。寺山は地区として孤立して道路復旧に長期間を要するところで判断悩ましいところがあるが、改めて寺山地区との懇談会は開催させていただきたい。

住 民：寺地川沿いが全部埋まってしまって土砂災害になってしまった。今回の水害では避難所生活となったが、現状では罹災証明書がないと仮設に入れない、浸水と土砂災害で調査方法が違ってらしく、調査時期がのびたので仮設入居の資格が確認できない状況。一方で仮設の鍵渡ししが12日にあるということであった。まちづくり推進課に連絡したところ、設備として布団のみはあるが電化製品などそれ以外はない、との回答を得た。一方で商品券がもらえるなどという噂もきている。県が主体で市は受け身なのかも知れないが、市としてどのように受け止めているか。

上島まちづくり推進課長：今回水害への対応については、仮設住宅の建設を要請したが完成まで3か月といわれている。しかし、町野地区では幸い仮設住宅の余剰があるとのことで、罹災証明がなくても先行的に空いている仮設住宅に入って頂くほうが良いのではないかと配慮させていただき、取り急ぎ仮設に入っていただく形をとっている。県からの情報はない状況だが、今回に限っては、仮設住宅を建設することなく先に既存仮設住宅に入るという手段になって、生活備品の準備が遅れてしまったのはご理解いただきたい。

住 民：そうすると新たな仮設住宅の建設はしないということか。一方で、仮設住宅に入ったら応急修理制度は受け取れないという説明を受けている。お金（応急修理制度）を取るか生活を取るか（仮設入居）どちらかしかない状況

上島まちづくり推進課長：応急修理制度について、災害救助法の関係で、仮設住宅に入られる方は応急修理制度は利用できない。ただ1/1の能登半島地震では、どちらかではなく、併用できるという運用となっている。今回水害で同じ運用をしてほしいという要望は出しているが、残念ながら国からいつ答えが得られるかは見通せない。

住 民：仮設に入ると応急修理支援金が入らない前提で考えているが、仮設住宅に入居しても補助を貰えるのであれば、そうであれば仮設に入ろうとする人もある。

上島まちづくり推進課長：方針については別途、お伝えするようにする。この会議後に別途、話を承るのでお残り頂きたい。

中前総務部長：電化製品への支援も内閣府と調整中で、レシートを取ってもらっておいてもらい後で清算する等も考えられるが、何らかの支援について水害について方針が決まっておらず、現時点では方針出るまでお待ち頂くことになる。

住 民：対応方針が出るまで避難所にとどまっても良いのか。最終的にはその方針が確定するまで避難所で待たせてもらうしかないのか。

市 長：地震時に特別に措置された制度について、水害への対応については答えが出ていない。結論を早く出してもらおうようお願いしていく。今のところ避難所にそのまま居ていただくことになるかと思う。

住 民：地域コミュニティ施設の維持再建で復興基金を使えるという話があったが、支援が輪島市では最高2,000万円、4/5ということでありがたい。ただ、集会所か神社かどちらかというのは如何か。集会所も神社も被災しており、また寺も傷んでいる。またこの受付窓口はどこか。金蔵集会所は準避難所としてケーブルを敷設してほしい

いと要望していた。今回の水害時に金蔵から避難していたら大変なことになっていたと思う。指定避難所とする場合、災害時の情報を得る環境、避難所として有効に機能する方策を考えていただきたい。神社もコミュニティの象徴としてあり、一方で集会所もあるのでどちらか選べというのは難しいところもある。

市長：生活再建支援課が窓口になるが、540億円を原資とした復興基金について、国の尽力で増やして頂いたが、このような被害だとそれでも足りない状況である。県として、コミュニティ施設についての再建は最大1,200万円を支援することとされ、地域でのコミュニティとして管理していくため、「地域ごとに1カ所」ということで県内統一で方針が出された。統一のメニューは破ることは出来ないが、市が上乗せで出して2,000万円上限の支援を打ち出している。県は神社・仏閣を含めるという話であったが、一方で宗教色があると難しく、地域の人だけで守る集会所的な社寺仏閣であれば良いという条件が示されている。何カ所もということも市としては思っていたが、あくまで集会所として機能している建物として1カ所の予算立てしか出来ていない。

中前総務部長：避難所については、発災直後はなかなかそこにたどり着けなかったということで、仮の避難所として地区の集会所を使って頂いていた。避難所の環境を整えていずれ指定避難所に移って頂くということになっている。そうした仮の避難所にどのように情報を届けることができるか、検討したい。金蔵については土砂崩れなどがあるが、状況次第では南志見地区に降りていくことも含め安全な場所に行きたくとも検討していただければと思う。

住民：南志見に避難しろということが言われたが、それは考えにくい。そのようなことを集落で説明すると大変なことになる。これからは災害が起こりうる。県道も新しい道路をつけるといっているにも関わらず、いざとなればテレビの情報もとれない状況であり、地区の集会所にも避難所に準じた情報環境を整備してほしい。

中前総務部長：まずは人命が大事なのでいざという際には安全な場所に避難するということが選択肢の一つとして検討してほしいということで申し上げたので、ご理解いただきたい。

住民：①寺地の方が言われた件と同じだが、仮設住宅の入居が決まったので、今日までに入るか否かの返答を欲しいといわれた。ただ応急修理制度の利用との問題が出てくる。私も地震で仮設に入っているが、今回の水害被災で仮設に入れるかどうか不安な人が多い。待っててもよろしいわけか。

上島まちづくり推進課長：しばらくお待ちいただければと思う。

住民：②市道の陥没があり、タイヤに影響が出ている。県道はだいぶアスファルト舗装で復旧できているが、市道の復旧は考えているのか。③市道に漏水が発見されており、一週間前に連絡させて頂いたが、一向に連絡がなく、とうとうと水が流れている状況。コストのかかった水を垂れ流しにしているがどうなのか。

市長：市道の陥没はひどい状況だが正直手が回っていない状況。除雪時期前に直せるところは直そうと頑張っている。県道は順次直そうとしているが、市道は除雪できるかどうか問題があるので、がんばって応急復旧で直していきたい。漏水についても地震後に市内に漏水箇所が多数あり、明らかになっているところも手がつけられていないところ。ご報告に基づいて漏水量の大きいところから直している状況だが、間

に合っていないことはご理解いただきたい。水道協会の協力も得ながら対応しているが、なかなかこういった被害になると輪島市に限らず難しい。

住 民：水害のときの被害認定調査済み証をもらっているが、罹災証明書は後日郵送となっていたがまだ届いていない。これも申請なき限り郵送しないのか。

池腰市民生活部長：水害の罹災証明書は郵送にて先週から順次させていただいており、調査の内容確認で2～3週間かかるという話をさせて頂いたがその後、遅れ気味であったが順次罹災証明書を発行させていただくのでいましばらくお待ちを。

住 民：災害公営を建設する際、熱給湯システムでのバイオマスなどの活用を考えられないか。山形県最上町に視察した際に、そのようなシステムを導入していた事例があった。個人的に資料を持っているので提供も可能。参考にしてほしい。また、外部の若い方が泊まれる施設を整備できないか。復興時からそうした環境を整えていけば、新たな人口の流入にもつながるのではないか。

市 長：災害公営住宅のバイオマス給湯の導入についてはまた資料を頂きたい。整備は急ぎでやらなければいけないので間に合うかどうかは要検討だが、高騰している石油等からすると安価になるかもしれない。外部からの移住等への対応についても考えて行きたい。

住 民：まちづくり計画のp5にある安全安心な場所への居住地移転について。地震のときは金蔵の集会所にお世話になり、雨のときは曾々木にお世話になっていたが、安全安心な場所への移住を考え始めている。私は栗蔵～五里分のあたりに家を建てたいと思ったが、豪雨災害で大変な被害があり、子どもからもここに建てるのか心配されている。ハザードマップを見るとがっかりする。一方で鈴屋のあたりは黄色だが栗蔵は大丈夫だったりする。国がどのような形で鈴屋川などの河川整備を考えているか情報を持っていれば御教示を。再建予定の場所がいつ頃から建築可能となるのか。総じては、町野全体がいつ頃復興できるのか。そういう見通しの中で、個人の再建を検討しないといけない。またインターネットの環境は早期に整えてほしい。支援の人々が入ってくるにもインターネットの接続は重要。

田川建設部技監：鈴屋川の応急仮復旧工事を石川県からの権限代行ということで国土交通省にお願いして大型土嚢を積んでいる。まずは応急仮復旧を行い、安全性の確保を行いたいということで大手建設会社が入っており、今後本復旧のための対策工事を行っていく運びになる。ただ、本格的な復興工事のスケジュールや時期タイミングがまだ明確になっていない。まずは安全性を高めるための工事ということで聞いており、情報が入り次第お知らせしたいと思うので、今のところはよろしく願いしたい。

住 民：町野地区の復興の青写真を示してほしい。自分たちも希望を持ちながら、再建に向けて進みたいと思っているが、今は青写真どころか真っ白の状況であり、そうなるも他市への移住も視野に入ってしまう。具体的なものを計画から見えるようになると個人の再建も具体的なイメージを持ちやすくなる。ぜひ、お願いしたい。

市 長：それぞれの地域のまちづくりは地域の方にも深く関わって頂きながらというところになるが、若い人が中心となって取り組んできたところは早く復興が進む。行政としても支援していくが、地域としても取り組んで頂きたい。スターリンクは支所、

公民館に1ヵ所予算化した。今後は孤立しやすいところ3ヵ所には置いていく。予算化できているので発注したら早い時期にはつくようになる。

住 民：被災者の生活再建の件である。鈴屋はほとんどレッドゾーンに指定された形になるが、このままでは鈴屋地区はだれも住めなくなる。鈴屋地区内の田んぼを造成整備し、鈴屋地区として生活できるようになれば、集落としては存続し、輪島市から出て行かなくてもすむ。災害があったところでも造成して人が住めるようにする、災害公営住宅も整備してもらえると集落の存続ができる。

地震と水害で私らの地域に準半壊で仮設に入られない方、水道も電気も来ない、川も氾濫して家にも帰られない方がいる。準半壊だと絶対には入れないのか。

市 長：準半壊の件、川が氾濫してライフラインの復旧が長期にわたる場合には、仮設入居は可能である。個別に相談させていただく。集落の移転支援については地域の要望があればそれが叶えられるよう、また相談させてほしい。国の事業としても移転促進事業等の支援制度もあり、まちづくり推進課と相談してほしい。地区の総意としてまとめれば輪島市としては応援する。

住 民：集団移転のイメージは。

市 長：集団移転とは安全かつ道路沿いとかに移動されるというイメージ。鈴屋から例えば町野の中心などに移転というのであれば、市のほうで支援できることもある。今後相談して欲しい。

住 民：町野第一自治会長。今後の積雪に対して、第一団地で話しているが、電気がないと何もできない。仮設として自主防災として停電対策をさせて頂いたが、積雪があると除雪車も入れない。小型除雪車の支援をいただけないか。区として認めてもらったが、出来れば全額補助をお願いしたい。高齢者見守りもやっていきたいが、とにかく活動の資金がない。資金を支援してほしい。

市 長：自治会の活動に対する支援金については議会で認めてもらったので様々な支援をしていけるようになる。除雪については自主防災組織で持っているところはそれを活用してほしい。細かいところは相談して欲しい。スターリンクは電気がないとダメなので、発電機もセットで支援を考えている。

住 民：凍結についても対策の支援をお願いしたい。自治会で出来ることはやるが、出来ない部分は協力して欲しい。

市 長：もちろん。困ったことは何でも言って欲しい。

住 民：雨が降って山が地震で被害を受けており保水ができないことになっている。親から山を引き継いだが、どこにあるかよくわからないし、今後個人で管理することができない。管理できない山を引き取ってもらうなど対策ができないか。保水ができないと田んぼ直したところで雨が降ったらまたダメになる。

市 長：今回の雨は、観測史上最大の一時間に121mmの雨が降った。通常なら20mm以上の雨で災害が発生するといわれているが、1000年に一度の地震と水害がほぼ同時に発生ということで、天を恨むところもあるが、命を繋いだものとしては前を向いていきたい。

山の関係については、森林経営管理制度の仕組みが近年創設され、市と一緒に管理するというエリアを広げている。木を伐採管理しながら少しずつ山をまもっていく

が、対応は始まったところ。山も昔とくらべて確かにひどい状況であったが、さらに地震と水害でひどい状況になっており、今後復旧を進める中で対応してかないといけない。

住 民：道路も傷んでおり学校の通学環境もよくない。その対応について、見通しがわかると安心できる。ざっくりとしたスケジュールなどで良いが早めに発表していただくと、安心して暮らせるのではないか。

市 長：情報は知り得た段階でお知らせしていきたいが、市だけではとてもではないが復旧が出来ず、国・県にお願いしていることも多いが、直ぐに回答が得られないこともある。大川の道路は年内に通れるようにしてほしいと依頼したが、道路線形も見直しながら本格的な復興をするという方向性は確認できている。金蔵の道路は線形を変えてしっかり道をつける、暫定でもつけるのは努力してでもやるという。いつになったら通れるのか、というのが分からないところは我々も同じ。市としての考えもあるが、簡単には言えない部分もあるのでそこはご承知を。

木下教育部長：複合災害で東陽中学校と町野小学校が被害をうけており、不便をかけるが柳田小学校に通っていただいている。また現在、東陽中学校が防災の拠点として機能している。多くの支援を頂いて土砂を除去していただき綺麗な状況となったが、学校も木造校舎のため水害後にホコリがたつ状況であり、学習環境としては好ましくない。板をはがして補修したい。今のところ卒業式までには対応できる見込みであるのでお待ちいただきたい。

住 民：当初は2学期中ということで聞いたが、確認できる情報は、できるだけ早くお知らせしてほしい。

住 民：支所機能をどうしようか検討されていると思うが、支所機能と商業機能の複合施設の整備を検討できないか。そうすると被災者の建物建設負担が軽減できるのではないか。もとやスーパーが1Fに入るなどといったこともやれるのではないか。支所を中心とした商店街 学校機能も合わせて、複合施設の整備を拠点として形成する。支所の機能アップ、再建、商店街再建をあわせて考えていただければ。

市 長：町野地区の復興をどのように進めるか。具体的なものは検討中で決まっていないが、様々な機能をもった施設整備は参考にしていきたい。

住 民：町野地区でも門前地区などに負けない復興をしたい。商店街の生業再建も含めて、なんとかしたい。市にもよろしく願いたい。

市 長：お気持ちは受け取った。

以 上

